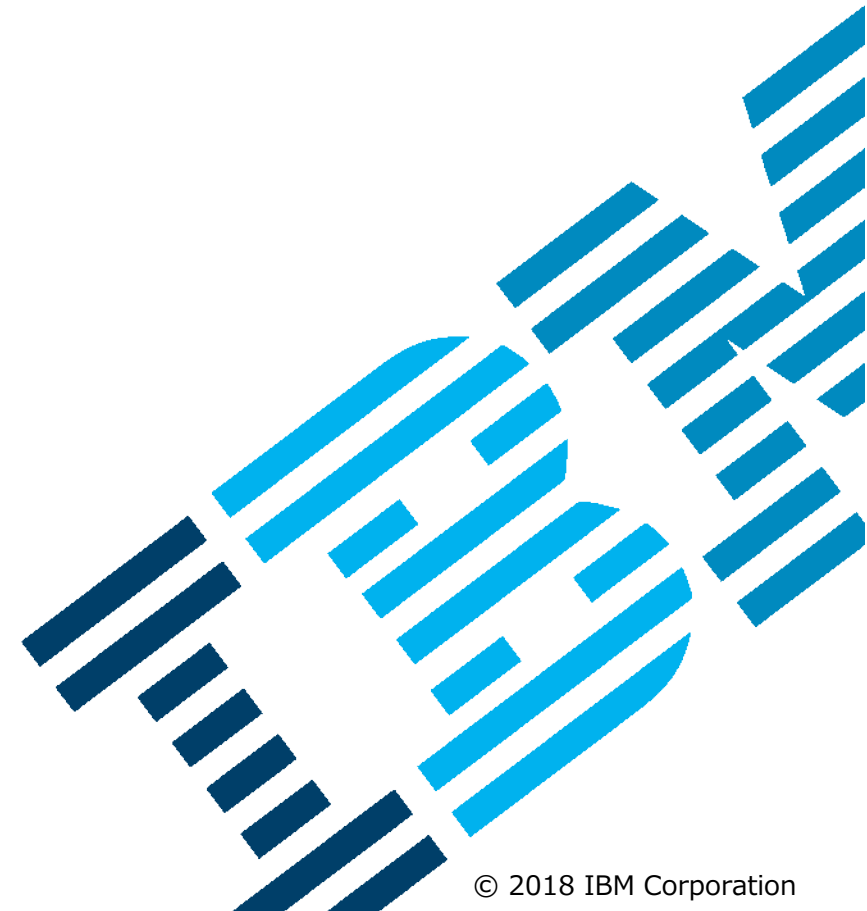




# IBM API Connect

## API利用に対する課金機能利用ガイド

Mar, 2018  
IBM Hybrid Cloud,  
IBM Japan



## Disclaimer

### ■ 当資料の位置づけ

- 当資料は IBM API Connect v5.0.7.2でリリースされた新機能の、API利用に対する課金機能について、その構成方法と考慮点をまとめたものです。
- API Connect V5.0.8.2を前提としています。  
※API管理サーバのifixレベルのバージョンはV5.0.8.2\_20180122-0216\_5452c4cb568d  
※開発者ポータルのifixレベルのバージョンはV5.0.8.2-iFix-20180306-2206

### ■ 注意事項

- 当資料に含まれる情報は可能な限り正確を期しておりますが、当資料に記載された内容に関して何ら保証するものではありません。ここでの記載内容はあくまでも支援情報であり、使用者の責任において取扱われるものとし、資料の内容によって受けたいかなる損害に関して一切の保証をいたしません。
- 製品の新しいリリース、修正などによって動作／仕様が変わる可能性がありますので、必ずマニュアル等で最新の情報をご確認ください。

# 目次

## 1. 新機能概要

1-1 API利用に対する課金機能の概要

1-2 請求/支払いの基本シナリオ

## 2. 設定と利用ガイド

2-1 API製品管理者側の設定と利用手順

2-1-1 Stripeアカウントの取得

2-1-2 Stripeアカウントの公開キー/秘密キーの取得

2-1-3 請求情報の登録

2-1-4 製品への課金プランの適用と公開

2-1-5 Stripeダッシュボード上での支払い情報の確認

2-2 APIを使用（利用登録）する利用者側の設定と利用手順

2-2-1 支払い用クレジットカード情報の登録

2-2-2 API製品の利用登録

2-2-3 API製品の利用停止（登録解除）

## 3. 新機能利用における考慮点

3-1 API製品管理者側の考慮点

3-1-1 API製品提供する組織とStripeアカウントとの紐付け

3-1-2 製品公開におけるカタログのモード制限

3-1-3 Stripeテスト環境の利用と本番環境への切替え

3-2 API利用者側の考慮点

3-2-1 開発者組織とクレジットカード情報の紐付け

3-2-2 複数のアプリケーションで配信登録した場合の考慮点

3-2-3 支払いに利用できるクレジットカードの種類

3-2-4 支払いが発生するタイミング

3-2-5 通貨の異なる複数のAPI製品プランの利用登録における注意点

## 4. 参照情報



# 1. 新機能概要

1-1 API利用に対する課金機能の概要

1-2 請求/支払いの基本シナリオ



## 1-1 API利用に対する課金機能の概要

- API Connect バージョン 5.0.7.2 以降、APIに対する課金機能が提供されています。  
APIを提供するプロバイダーは、API製品に対して利用可能なAPIのセットとアクセスレート制限に応じた課金設定プランを作成・公開し、APIを利用するコンシューマーは公開されたプランを利用登録し、オンライン決済処理プロバイダーである [Stripe](#) を通じてクレジットカードによる支払いを行うことができるようになりました。
- プロバイダーは提供するAPI製品に対して、利用可能なAPIのセットとアクセスレート制限を指定したプランごとに各種通貨にて月額課金プランを設定することができます。また、新規の利用者向けに無料試用期間の日数を設定することができます。
- プロバイダーはStripeアカウントを利用して、Stripeの提供するダッシュボード上でAPI利用に対する支払いを管理します。
- コンシューマーは開発者ポータルで公開されたAPI製品を利用登録/登録解除します。  
API製品の利用登録に対する支払いは事前に登録しておいたクレジットカードにて行います。

- [illegible]



## 2. 設定と利用ガイド

2-1 API製品管理者側の設定と利用手順

2-2 APIを使用（利用登録）する利用者側の設定と利用手順



## 2-1 API製品管理者側の設定と利用手順

### 2-1-1 Stripeアカウントの取得

**[手順1]** Stripeアカウントの取得を <https://dashboard.stripe.com/register> で行います。  
アカウント作成の画面にて必要事項を入力し、作成を実行すると、メールアドレスに確認メールが届きます。  
メールの指示に従い、認証確認を行うことでアカウント用のダッシュボード画面に入ることができます。これで登録は完了です。

※登録した直後はテスト環境のみが利用できる状態です。後述する請求情報の登録に必要な公開/秘密キーもテスト用となります。  
本番環境利用するときはStripeのガイドに従い、本番環境利用の申請を行ってください。  
(詳細は 3-1-3 Stripeテスト環境の利用と本番環境への切替え を参照ください。)

The image shows the Stripe account creation form. It has a header with the Stripe logo and the text "Stripe アカウントの作成". Below this is a section with input fields for "メール" (Email), "名前" (Name), "パスワード" (Password), and "パスワードの確認" (Confirm Password). At the bottom, there is a checkbox labeled "私はロボットではありません" (I am not a robot) with a reCAPTCHA logo and the text "プライバシーポリシー" (Privacy Policy). A blue button at the bottom says "Stripe アカウントを作成" (Create Stripe account).

Stripeアカウント作成画面



Stripeダッシュボード画面



## 2-1 API製品管理者側の設定と利用手順

### 2-1-2 Stripeアカウントの公開キー/秘密キーの取得

**[手順1]** API ConnectとStripeアカウントを紐付ける公開キー/秘密キーを取得します。  
ダッシュボード画面の左ペイン内の"API"をクリックし、公開キーと秘密キーを取得します。

※主となるStripeのログインアカウントの元に複数のアカウントを作成することができます。  
キーはこのアカウント毎に作成できるので、支払い管理を複数に分割する場合には、必要に応じてアカウントを作成してください。  
(デフォルトでは、"名称未設定のアカウント"となっています。)

**アカウントの新規作成**

**公開キーと秘密キーの取得**

**公開キーと秘密キー**

キーの名前	トークン	最終使用日	作成日
公開可能	pk_test_mbH14xXE0zz5WxP5bnMb1cE	—	2018年2月28日
シークレットキー	sk_test_0b1QCvI9iGy9tWCX7VeItDic	—	2018年2月28日

制限付きの API キー

キーの名前 トークン 最終使用日 作成日

制限付きのキーはありません

Stripeダッシュボード画面

## 2-1 API製品管理者側の設定と利用手順

### 2-1-3 請求情報の登録

2-1-2で取得したStripeアカウントの公開キーと秘密キーをAPI Managerに登録します。

**[手順1]** API Managerにログインします。

※組織に対して、1:1でStripeアカウントを登録することになります。  
(詳細は 3-1-1 API製品提供する組織とStripeアカウントとの紐付け を参照ください。)

**[手順2]** ナビゲーションメニューで“管理”をクリックし、管理画面を開いて“請求”タブをクリックすると、請求統合の画面が表示されます。

The screenshot shows the IBM API Connect Admin console. On the left, the navigation menu is visible with the '管理' (Manage) option highlighted by a red dashed circle and an arrow pointing to the main content area. The main content area shows the '管理' (Manage) tab selected, with a red dashed circle around the '請求' (Request) sub-tab. An arrow points from this sub-tab to the '請求統合' (Request Integration) screen on the right. The '請求統合' screen displays a table with columns for 'タイプ' (Type), '名前' (Name), '状況' (Status), and '問題' (Issue). The table is currently empty, and a message at the bottom states: 'この組織に対して請求統合は定義されていません。' (Request integration is not defined for this organization).

**API Manager ナビゲーションメニュー**

**管理画面**

**請求統合画面**

## 2-1 API製品管理者側の設定と利用手順

### 2-1-3 請求情報の登録（続き）

**[手順3]** 請求統合の画面にて、“追加”をクリックし、表示される“Stripe統合”を選択すると、Stripe アカウントの追加画面が表示されるので、2-1-2で取得した公開キーと秘密キーをそれぞれ入力し、作成ボタン押して作成します。  
Stripeアカウントが表示され、状況が“接続済み”になれば、登録は完了です。

The screenshot illustrates the steps to add a Stripe account in the IBM API Connect management console. It shows the navigation from the 'Request Integration' page to the 'Add' button, then to the 'Stripe Integration' selection, followed by the 'Stripe Account Addition' dialog where the public and secret keys are entered, and finally the 'Stripe Integration' table showing the account as 'Connected'.

**請求統合画面**

請求統合

タイプ	名前	状況	問題
この組織に対して請求統合は定義されていません。			

**追加 +**

**Stripe 統合**

**Stripe アカウントの追加**

API キーを Stripe ダッシュボードから取得して、ここに入力してください。

Stripe 公開鍵 \*

pk\_test\_psoWKNKJ7SuqCQvzblvaOk1c

Stripe 秘密鍵 \*

sk\_test\_8CsHZY4cGNlGJWvV8fy0ChNl

キャンセル 作成

取得したStripe公開キーと秘密キーを入力

**請求統合**

タイプ	名前	状況
Stripe 統合 ⓘ	APICQIT03	接続済み

Stripeアカウントが表示され、状況が“接続済み”になればOK。

## 2-1 API製品管理者側の設定と利用手順

### 2-1-4 製品への課金プランの適用と公開

※製品とその製品に含まれるAPIは設定済みであることを前提として、以下プランの設定から説明しています。

作成されたAPI製品に課金プランを作成して適用します。

**[手順1]** API Managerにログインします。“製品”タブをクリックし、製品一覧から課金対象のAPI製品をクリックします。  
製品設計情報が表示されるので、左ペインから“プラン”をクリックします。定義されているプランが一覧表示されます。

**[手順2]** 一覧から既存のプランを開くか新規でプランを追加します。

IBM API Connect ドラフト

製品 API

追加 + 製品の検索

タイトル

PROD\_Readjson\_03 1.0.0

API Manager  
製品一覧画面

IBM API Connect PROD\_... 1.0

すべての製品 設計 ソース

情報

問い合わせ先

ライセンス

サービスのご利用条件

可視性

API

API\_Readjson\_01 1.0.0

プラン

Test\_Plan\_01

カテゴリ

情報

タイトル \*

PROD\_Readjson\_03

名前 \*

prodreadjson03

バージョン \*

1.0.0

プラン

既存プランを開く

Test\_Plan\_01

承認は不要, 5分ごとに1件の要求

新規で作成する場合は  
ココをクリック

+

製品設計画面

## 2-1 API製品管理者側の設定と利用手順

### 2-1-4 製品への課金プランの適用と公開（続き）

**[手順3]** 展開されたプラン設定項目の中の“請求モデル”の値（デフォルトは“なし”）をクリックし、“毎月サブスクリプション”を選択します。

**[手順4]** 通貨、月額、無料トライアル日数入力欄が追加されるので、それぞれ選択または入力し、値を設定します。  
無料トライアルを設けない場合は値を0にします。（0にした場合は利用者が利用登録すると即時に支払いが発生します。）  
入力が完了したら、設定を保存します。

請求モデル

毎月サブスクリプション

通貨

USD - 米国ドル

月額 \* ①

100

無料トライアル日数 \*

0

レート制限 (呼び出し数/時間間隔) +

rate-limit-1

1 / 5 分 ☒ ハード制限の強制

入力したら保存する

## 2-1 API製品管理者側の設定と利用手順

### 2-1-4 製品への課金プランの適用と公開（続き）

**[手順5]** 課金プランが設定された製品を公開します。

前段で設定・保存が完了した製品を公開先カタログにステージングします。

カタログ画面から対象製品が“ステージング済み”となっていることを確認して、製品を公開します。

対象製品の状態が“公開済み”になれば完了です。

※課金プランが設定された製品の場合、公開先のカタログの開発モードがオンになったまま公開しようとするとうエラーになります。

公開先のカタログは事前に開発モードをオフにしておきます。（詳細は 3-1-2 製品公開におけるカタログのモード制限 を参照ください。）

The screenshot shows the IBM API Connect console interface. At the top, the navigation bar includes the IBM API Connect logo and the text "APIC\_TES...". Below the navigation bar, the main content area displays a table of products. The table has columns for "タイトル" (Title) and "状態" (Status). The first row shows "prodreadjson03:1.0.0" with a status of "ステージング済み 数秒前" (Staged a few seconds ago). A red dashed circle highlights the three-dot menu icon next to this row. A red arrow points from this menu to a dropdown menu that appears. This dropdown menu contains options: "公開" (Publish), "既存の製品の置換" (Replace existing product), "既存の製品の取り替え" (Swap existing product), "可視性の編集" (Edit visibility), and "製品の分析" (Analyze product). Another red arrow points from the "公開" option to a second table. This second table shows the product "prodreadjson03:1.0.0" with a status of "公開済み 19時間前" (Published 19 hours ago). A red dashed circle highlights the "公開済み" status. Below the first table, the text "カタログ画面からステージングされた製品を公開" (Publish product staged from catalog screen) is displayed. Below the second table, the text "製品の状態が“公開済み”になればOK" (OK when product status is "Published") is displayed. At the bottom left, the text "カタログ内製品一覧画面" (Product list screen in catalog) is shown.

カタログにステージング

カタログ画面からステージングされた製品を公開

公開

製品の状態が“公開済み”になればOK

カタログ内製品一覧画面

## 2-1 API製品管理者側の設定と利用手順

### 2-1-5 Stripeダッシュボード上での支払い情報の確認

※以下、公開したAPI製品が利用者（コンシューマー）に利用登録された後に、API製品管理者が支払いを確認する手順です。

**[手順1]** <https://dashboard.stripe.com/> にアクセスし、Stripeダッシュボードを開きます。

**[手順2]** 左ペインのメニューで“支払い”をクリックすると、ログインしているStripeアカウントに対する支払いの一覧が表示されます。同様に、メニューから“顧客”、“定期支払い”などを選択することで、それぞれの情報を確認できます。

※Stripe画面機能詳細はStripeのガイドを参照ください。

**Stripeダッシュボード画面**

**支払い一覧画面**

金額	説明	顧客	日付
¥ 500	ch_1COPW4JJyln7XwPNGPJfdKrf	e27665@gmail.com	2018/02/28 16:38:20
¥ 5,000	ch_1BzelRJyln7XwPN8LivEeVT	e27665@gmail.com	2018/02/26 14:43:05
¥ 3,000	ch_1BzbhZJJyln7XwPN1BVHykvR	e27665@gmail.com	2018/02/26 11:26:53
¥ 1,500	ch_1Byzb1JJyln7XwPN5ywOaMcR	e27665@gmail.com	2018/02/24 18:45:35
¥ 10,000	失敗 ch_1ByBdJJyln7XwPNJR7nbKR1	e27665@gmail.com	2018/02/22 13:24:47

**(その他の例) 定期支払い一覧画面**

顧客	ステータス	請求方法	商品	作成日
e27665@gmail.com	トライアル中	自動	PROD_Readjson_11:1.0.0:Test_Plan_18	2018/03/01 16:12
e27665@gmail.com	トライアル中	自動	PROD_Readjson_11:1.0.0:Test_Plan_19	2018/03/01 16:11
e27665@gmail.com	有効	自動	PROD_Readjson_09:1.0.0:Test_Plan_16	2018/02/26 11:26
e27665@gmail.com	有効	自動	PROD_Readjson_08:1.0.0:Test_Plan_15	2018/02/23 17:43
e27665@gmail.com	有効	自動	PROD_Readjson_04:1.0.0:Test_Plan_11	2018/02/21 13:38

**支払いの詳細**

ID: ch\_1BzelRJyln7XwPN8LivEeVT  
 金額: ¥5,000 → \$46.25  
 手数料: \$1.64  
 純売上: \$44.61  
 支払い日: 2018/02/26 14:43:05  
 説明: 説明がありません

各行をクリックすることで、より詳細な情報を確認できます。

## 2-2 APIを使用（利用登録）する利用者側の設定と利用手順

### 2-2-1 支払い用クレジットカード情報の登録

**[手順1]** 開発者ポータルにログインします。開発者組織を、支払い情報を登録する対象の開発者組織を選択します。

※開発者組織に対して、1:1で支払い用クレジットカード情報を登録することになります。

（詳細は 3-2-1 開発者組織とクレジットカード情報の紐付け を参照ください。）

**[手順2]** ログインユーザーメニューから“自分の組織”を選択します。自分の組織の管理画面が表示されます。

支払い情報を登録する対象の  
開発者組織を選択する（手順1）

ログインIDをクリックし  
表示されるメニューから  
“自分の組織”を選択（手順2）

The screenshot shows the IBM API Connect developer portal. The main header includes the IBM logo and the text 'Innovate with our APIs'. Below this, there's a navigation bar with links like 'Home', 'Getting started', 'API 製品', 'アプリケーション', 'Blogs', 'Forums', and 'Support'. A user menu is visible in the top right corner, showing the email 'e27665@gmail.com' and a dropdown arrow. A red circle highlights the email, and a red arrow points to the dropdown menu. The dropdown menu contains options: 'アカウント情報', 'マイ・ブックマーク', '自分の組織' (highlighted with a red circle), '組織の作成', and 'ログアウト'. A red arrow points from the '自分の組織' option to the '自分の組織' page. The '自分の組織' page shows the organization name 'E27665@GMAIL.COM', status 'ACTIVE', and role '組織の所有者'. There are also links for 'Edit organization', 'Change ownership', and 'Delete organization'.

開発者ポータル画面



## 2-2 APIを使用（利用登録）する利用者側の設定と利用手順

### 2-2-1 支払い用クレジットカード情報の登録（続き）

**[手順3]** “Billing”タブをクリックすると、登録されているカード情報が表示されます。更新ボタンをクリックします。

**[手順4]** 決済情報の入力画面が表示されるので入力し、更新を実行します。これで登録は完了です。

※日本ではStripeで利用できるクレジットカードはVISA、Master、AMEXの3種類です。

※Stripeテスト環境で支払いのテストを実施する場合は、テストカード情報が提供されています。

こちら(<https://stripe.com/docs/testing#cards>)を参照してください

The sequence of screenshots illustrates the process of updating billing information:

- Desktop View (Left):** The "Billing" tab is selected in the "自分の組織" (My Organization) section. The "更新" (Update) button at the bottom is circled in red.
- Mobile View (Middle-Left):** The "決済情報入力へ" (Go to payment info input) button is circled in red.
- Mobile View (Middle-Right):** The "Update Billing Details" button is circled in red. A red arrow points from the desktop "更新" button to this screen. A red dashed box highlights the card number, expiration date, and cardholder name fields, with the text "テストカードの場合は任意の値でOK" (For test cards, any value is OK).
- Desktop View (Right):** The "Billing" tab shows the updated information: "Name: e27665", "Eメール: e27665@gmail.com", "Credit card", "Card ending in: 4242", and "Card expiration: 1/2020". The "Submitted" button is visible at the bottom.

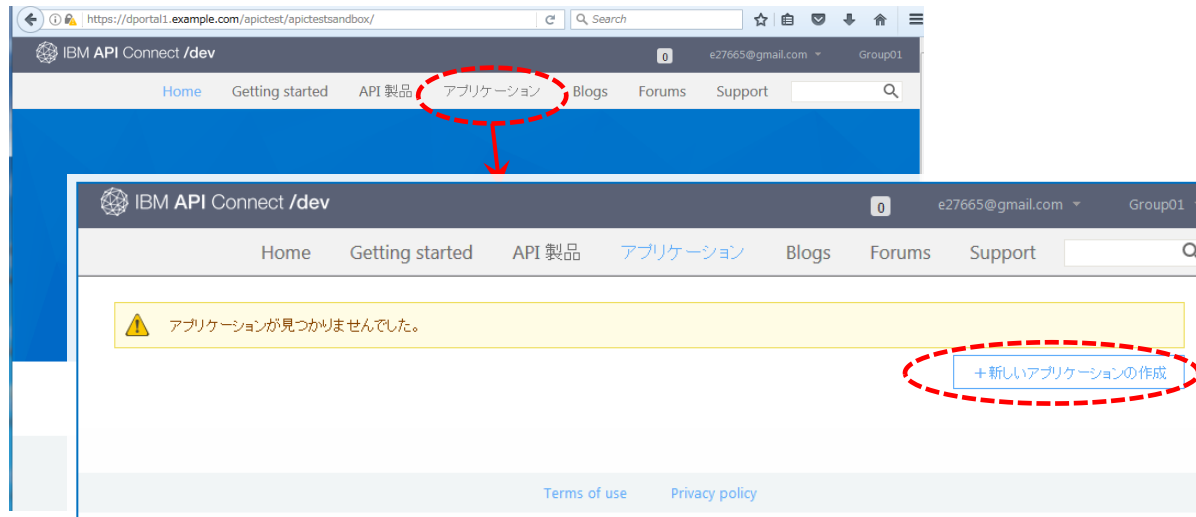
## 2-2 APIを使用（利用登録）する利用者側の設定と利用手順

### 2-2-2 API製品の利用登録

API製品を利用登録するアプリケーションを登録します。

**[手順1]** 開発者ポータル画面にて、“アプリケーション”タブをクリックします。

**[手順2]** “新しいアプリケーションの作成”ボタンを押して、表示されるアプリケーションの登録画面から必要事項を入力します。  
入力が完了したら“送信”ボタンを押して、正常に処理されたメッセージが表示されればアプリケーションの登録は完了です。



開発者ポータル画面

アプリケーション一覧画面



送信して作成

## 2-2 APIを使用（利用登録）する利用者側の設定と利用手順

### 2-2-2 API製品の利用登録（続き）

登録したアプリケーションにてAPI製品を利用登録します。

**[手順3]** 開発ポータル画面にてAPI製品を開きます。

※“API製品”タブをクリックし、公開されている製品を選択してプランが確認できます。

**[手順4]** 利用登録するプランにある“配信登録”ボタンを押すと、配信登録画面が表示されます。利用登録するアプリケーションを選択し、“配信登録”ボタンを押します。正常に処理されたメッセージが表示されれば完了です。

※支払いのタイミングの詳細は 3-2-4 支払いが発生するタイミング を参照ください。

**API製品画面**

**利用登録するアプリケーションを選択して配信登録**

**正常に利用登録できたことを確認**

## 2-2 APIを使用（利用登録）する利用者側の設定と利用手順

### 2-2-3 API製品の利用停止（登録解除）

API製品の利用を止める場合、利用登録を停止します。

**[手順1]** 開発者ポータル画面にて、API製品を利用登録しているアプリケーションを開きます。

**[手順2]** 配信登録欄の“登録解除”をクリックします。確認画面が表示されるので、再度“登録解除”をクリックします。  
正常に処理されたメッセージが表示されれば完了です。Stripe上では、次回以降の支払いはキャンセルされます。

詳細

Test\_APL\_Readjson\_01

更新

説明  
Test\_APL\_Readjson\_01

資格情報 | 資格情報の追加

Default

クライアント ID  
..... 表示 リセット

クライアント シークレット  
..... 検証 リセット

編集

配信登録

配信登録
prodreadjson03 (1.0.0) (Test_Plan_10)

詳細の表示 登録解除

アプリケーション詳細画面

IBM API Connect /dev

Home Getting started API 製品

このプランからアンサブスクライブしますか?

登録解除 キャンセル

✓ アプリケーションが正常にアンサブスクライブされました。

Test\_APL\_Readjson\_01

分析 通知

詳細

Test\_APL\_Readjson\_01

更新

説明  
Test\_APL\_Readjson\_01



## 3. 新機能利用における考慮点

3-1 API製品管理者側の考慮点

3-2 API利用者側の考慮点



## 3-1 API製品管理者側の考慮点

### 3-1-1 API製品提供する組織とStripeアカウントとの紐付け

- 製品提供を行う組織(プロバイダー組織)は、利用登録されたAPI製品への支払いの管理をStripeアカウントを利用して行います。
- API Connectでは、製品/カタログ提供を行う組織(プロバイダー組織)を複数作成することができ、この組織毎に1つのStripeアカウント（公開/秘密キーのセット）を紐付けることができます。  
※同じStripeアカウントを複数のプロバイダー組織に紐付けることは可能です。
- 支払い管理を分離/分割したい場合は、API Connect上でプロバイダー組織を分ける必要があります。



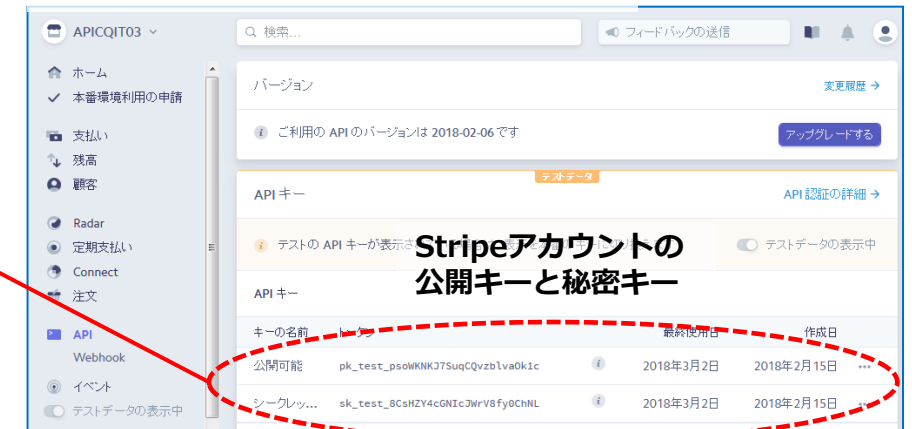
API Manager画面



Cloud Manager 組織画面

ココの“組織”単位で  
Stripeアカウントを  
紐付ける

Stripe ダッシュボード画面



Stripeアカウントの  
公開キーと秘密キー

支払い管理を分離/分割する場合は、  
ココで組織を複数作成し、  
それぞれにStripeアカウントを用意する。

## 3-1 API製品管理者側の考慮点

### 3-1-2 製品公開におけるカタログのモード制限

- 課金設定された有料プランが設定されたAPI製品を公開する場合、公開する先のカタログは開発モードをオフにしておく必要があります。  
※開発モードの詳細はこちら([https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/ja/SSFS6T/com.ibm.apic.apionprem.doc/create\\_env\\_507.html](https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/ja/SSFS6T/com.ibm.apic.apionprem.doc/create_env_507.html))を参照してください。
- カatalogの開発モードは、ダッシュボード画面から対象のカタログを選択し、“設定”タブ内の“概要”メニューでオフにすることができます。

課金設定されたプランを含む製品を、開発モードがオンになったカタログに公開しようとすると、エラーになります。

開発モードをオフにする

公開先カタログを選択

設定タブをクリック

API Manager  
カタログダッシュボード画面

概要

表示名  
APIC\_TEST\_SANDBOX

名前  
apicestsandbox

開発モード  
これを有効にすると、すべてのステージング・アクションと公開アクションが強制的に実行されます。競合が見つかった場合は、システムによって自動的に解決されます。公開解

開発モードをオフにする

このカタログの自動サブスクリプションを有効にします。これによって、カタログ内のすべ

## 3-1 API製品管理者側の考慮点

### 3-1-3 Stripeテスト環境の利用と本番環境への切替え

- 2-1で前述したように、Stripeアカウントを登録した直後に利用できるStripe環境は、テスト環境のみが利用できる状態です。
- テスト環境にて発行された公開/秘密キーはテスト用であり、そのキーで公開されたAPI製品を利用登録しても、支払いが行われることはありません。テストフェーズが完了して本番移行し、実際に課金を行うようにする場合には、本番用のキーを発行して再登録する必要があります。
- 本番環境利用するときはStripeのガイドに従い、本番環境利用の申請を行ってください。



Stripeダッシュボード画面

The image shows the Stripe application form for the live environment. The form is titled '本番環境利用の申請' (Apply for live environment). It includes a link to 'Learn more' and a section titled 'Where are you based?'. The 'Country' dropdown menu is set to 'United States'. Below this, there is a section titled 'Your product' with a text input field for 'Tell us about your business'. The input field contains the text 'What products do you sell? Who do you sell to? When do you charge your customers?'.

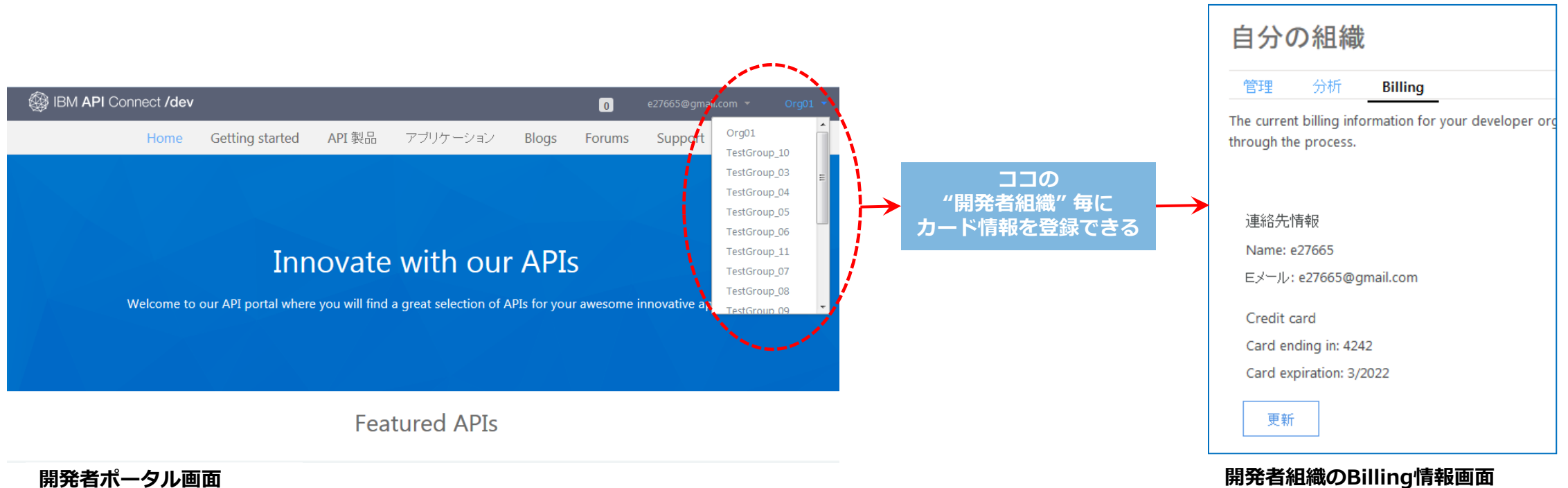
本番環境利用申請画面



## 3-2 API利用者側の考慮点

### 3-2-1 開発者組織とクレジットカード情報の紐付け

- API製品を利用登録するコンシューマーは、事前に登録したクレジットカードでその支払いを行います。
- API Connect 開発者ポータルでは、開発者組織を複数作成でき、この組織毎に1つのクレジットカードを登録することができます。  
※同じクレジットカードを複数の開発者組織に紐付けることは可能です。
- 複数のクレジットカードを使用して、支払い管理を分離/分割したい場合は、開発者ポータル上で開発者組織を分ける必要があります。



## 3-2 API利用者側の考慮点

### 3-2-2 複数のアプリケーションで配信登録した場合の考慮点

- 1つの製品を1つの開発者組織内の複数のアプリケーションで配信登録した場合、2つ目以降の配信登録が課金されません。
- この事象は製品障害によるもので、APAR LI80030(CONSUMER APPLICATIONS SUBSCRIBED TO THE SAME MONETIZED PRODUCT/PLAN SHOULD BE INDIVIDUALLY CHARGED)がオープンされており、修正予定です。(2018年3月現在)

事前にアプリケーションを2つ登録しておく

1つ目の配信登録は正常に課金される

金額	説明	顧客	日付
¥ 3,000	ch_1BzbhZJJyln7XwPN18VHykvR	e27665@gmail.com	2018/02/26 11:26:53
¥ 1,500	ch_1Byzb1JJyln7XwPN5ywOaMcR	e27665@gmail.com	2018/02/24 18:45:35
¥ 10,000 (失敗)	ch_1ByBdTJJyln7XwPNJR7nbKR1	e27665@gmail.com	2018/02/22 13:24:47
¥ 10,000 (失敗)	ch_1RxnTR1Jvln7XwPNRTR0hNr2	e27665@gmail.com	2018/02/21 13:44:57

2つ目は正常に配信登録されるが、Stripe上で支払い情報が更新されない

金額	説明	顧客	日付
¥ 3,000	ch_1BzbhZJJyln7XwPN18VHykvR	e27665@gmail.com	2018/02/26 11:26:53
¥ 1,500	ch_1Byzb1JJyln7XwPN5ywOaMcR	e27665@gmail.com	2018/02/24 18:45:35
¥ 10,000 (失敗)	ch_1ByBdTJJyln7XwPNJR7nbKR1	e27665@gmail.com	2018/02/22 13:24:47
¥ 10,000 (失敗)	ch_1RxnTR1Jvln7XwPNRTR0hNr2	e27665@gmail.com	2018/02/21 13:44:57

## 3-2 API利用者側の考慮点

### 3-2-3 支払いに利用できるクレジットカードの種類

- Stripeのオンライン決済で利用できるクレジットカードは、以下の3つです。（2018年3月現在）

VISA  
Master  
AMEX

### 3-2-4 支払いが発生するタイミング

- 月次前払いとなります。  
利用登録を開始した時点からトライアル期間が経過すると、提示された月額で初回月分の支払い決済がStripeで実施されます。  
以降毎月同日に定期支払い処理が同様に実施されます。  
トライアル期間が0で設定されているプランの場合は、利用登録すると即時に初回月分の支払い決済が実施されます。

## 3-2 API利用者側の考慮点

### 3-2-5 通貨の異なる複数のAPI製品プランの利用登録における注意点

- API製品の月額利用料金は、日本円、米ドルをはじめ様々な通貨で製品プランに設定することが可能ですが、Stripeの仕様により、異なる通貨で設定された複数のプランを、1つの開発者組織で利用登録することができません。（下図に示したようなエラーとなります。）

例えば、ある開発者組織で、最初に日本円で提示されたAPI製品プランを利用登録した場合、次に日本円以外の通貨で設定されたAPI製品プランを利用登録することができません。

異なる通貨で設定された複数のプランを利用登録する場合は、その通貨用に開発者組織を別途作成し、その組織にて利用登録してください。このとき、クレジットカードは同じものを登録・使用できます。

The screenshot shows the IBM API Catalog interface. At the top, a navigation bar includes links for Home, Getting started, API 製品, アプリケーション, Blogs, Forums, and Support. Below the navigation bar, a red dashed oval highlights an error message: "請求ゲートウェイに対して無効なデータ・フォーマットが送信されました。" (Invalid data format sent to the request gateway). Below the error message, the details for the "PROD\_Readjson\_12 1.0.0" API are shown, including a 5-star rating and the text "まだ投票はありません" (No votes yet). Below the API details, a table titled "プラン" (Plans) is displayed. The table has three columns: the first column lists the API name and version, and the next two columns show the pricing for different plans. The table data is as follows:

	Test_Plan_24	Test_Plan_23
API_Readjson_01 1.0.0	5/分	5/分
Pricing	5000 JPY per month (1 day trial period)	50 USD per month (1 day trial period)

API製品詳細画面



## 4. 参照情報

API Connect 製品マニュアル (IBM Knowledge Center)

Stripeについて



## 4. 参照情報

### API Connect 製品マニュアル (IBM Knowledge Center)

- IBM API Connect 5.0.x (製品マニュアルトップ)  
[https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/ja/SSMNED\\_5.0.0/mapfiles/getting\\_started.html](https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/ja/SSMNED_5.0.0/mapfiles/getting_started.html)
- このリリースの新機能 (V5.0.8)  
[https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/ja/SSMNED\\_5.0.0/com.ibm.apic.overview.doc/overview\\_whatsnew.html](https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/ja/SSMNED_5.0.0/com.ibm.apic.overview.doc/overview_whatsnew.html)
- 製品の使用に対する請求  
[https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/ja/SSMNED\\_5.0.0/com.ibm.apic.apionprem.doc/capim\\_product\\_billing.html#capim\\_product\\_billing](https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/ja/SSMNED_5.0.0/com.ibm.apic.apionprem.doc/capim_product_billing.html#capim_product_billing)
- 着信請求先情報の追加  
[https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/ja/SSMNED\\_5.0.0/com.ibm.apic.apionprem.doc/tapim\\_mon\\_add\\_incom\\_bill.html](https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/ja/SSMNED_5.0.0/com.ibm.apic.apionprem.doc/tapim_mon_add_incom_bill.html)
- 有料サブスクリプション・プランの定義  
[https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/ja/SSMNED\\_5.0.0/com.ibm.apic.apionprem.doc/tapim\\_mon\\_create\\_plan.html](https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/ja/SSMNED_5.0.0/com.ibm.apic.apionprem.doc/tapim_mon_create_plan.html)
- 有料サブスクリプションのクレジット・カード情報の追加  
[https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/ja/SSMNED\\_5.0.0/com.ibm.apic.devportal.doc/tapim\\_add\\_cc\\_account.html](https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/ja/SSMNED_5.0.0/com.ibm.apic.devportal.doc/tapim_add_cc_account.html)
- チュートリアル: 価格設定をともなう API 製品のサブスクリプション・プランの定義  
[https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/ja/SSMNED\\_5.0.0/com.ibm.apic.apionprem.doc/tutorial\\_apionprem\\_monetization\\_offer.html](https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/ja/SSMNED_5.0.0/com.ibm.apic.apionprem.doc/tutorial_apionprem_monetization_offer.html)
- チュートリアル: 価格設定を伴うプランの利用登録  
[https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/ja/SSMNED\\_5.0.0/com.ibm.apic.devportal.doc/tutorial\\_portal\\_sub\\_paid\\_plan.html](https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/ja/SSMNED_5.0.0/com.ibm.apic.devportal.doc/tutorial_portal_sub_paid_plan.html)
- 請求の構成のトラブルシューティング  
[https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/ja/SSMNED\\_5.0.0/com.ibm.apic.apionprem.doc/r\\_ts\\_billing.html](https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/ja/SSMNED_5.0.0/com.ibm.apic.apionprem.doc/r_ts_billing.html)

## 4. 参照情報（続き）

### Stripeについて

- Stripe 全般・概要  
<https://stripe.com/>
- Stripe 仕様詳細等（Stripe Docs）  
<https://stripe.com/docs>
- Test card numbers and tokens  
<https://stripe.com/docs/testing#cards>



---

# End of File

